

授業コード	科目名	助産学概論 Introduction to Midwifery			担当教員	阿部正子
助 101					E-mail	m.abe@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 423	授業終了後 90 分（teams でも可）	
1. 授業の概要						
本授業は、助産師を「分娩介助を行う職種」としてではなく、親子および家族の移行過程を支援する専門職として理解することを目的とする。助産師の専門性を、国際的定義、副読本『助産力』、および助産学における主要概念（母親役割獲得、愛着、ボンディング、移行理論）から多角的に学び、分娩介助を助産実践全体の中に位置づけ直す。本授業は、歴史・法規・母子保健制度・教育論を扱う他科目と役割分担し、助産師としての価値観・判断軸・専門職観の形成に特化した導入科目である。この科目は、実務経験のある教員が担当し講義形式で実施する。						
1. 到達目標						
本授業を通して学生は以下を達成する。 1. ICM の助産師定義に基づき、助産師の専門性と役割を説明できる。 2. 分娩介助を助産実践全体の中に位置づけ、その目的と限界を説明できる。 3. 母親役割獲得、愛着、ボンディング、移行理論を用いて、親子関係の形成を核とした助産師の支援の意義を説明できる。 4. 助産師が「待つこと」「しないこと」を含めた専門的判断を担っていることを説明できる。 5. 理論的根拠に基づき、自身の助産観を論理的に表現できる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 <倫理観、態度> (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 <専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力> (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
回	主題	内容			形式	
1	助産学概論で何を学ぶのか	助産学概論の位置づけ／助産師像の問い直し			講義	
2	助産師の専門性とは何か	ICM 助産師定義の理解と解釈			講義＋個人思考	
3	『助産力』にみる助産師の価値	支援と管理の違い／助産師の実践哲学			ディスカッション	
4	母親役割獲得	親になる過程と助産師の支援			講義	
5	愛着・ボンディング	親子関係を急がせない支援の視点			講義	
6	移行理論	妊娠・出産・育児という役割移行			講義	
7	分娩介助の位置づけ	助産実践全体の中での分娩介助			ディスカッション	

8	助産師とは何をする専門職か	概念の統合と助産観の形成	統合
5. テキスト・参考文献			
テキスト：医学書院『助産学講座Ⅰ 助産学概論』 副読本：『助産力』 参考資料：International Confederation of Midwives 助産師定義			
6. 準備学習			
・指定されたテキスト・副読本の該当箇所を事前に読む ・授業後は学習内容を振り返り、自身の助産観について簡潔にまとめる			
7. 成績評価の方法			
● 授業参加・小課題（リフレクション等） 30% ● 最終レポート 70% ※最終レポートでは、ICM 定義・副読本・主要概念を用いて「助産師とは何をする専門職か」を論述する。 1,200～1,600 字（参考文献除く）、横書き、Word 提出、引用箇所は明示すること ※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。			
8. 履修の条件			
特になし			
9. その他			
本授業は、実習および各論科目において助産師として判断・行動するための概念的基盤を形成することを目的とする。授業で学んだ内容は、実習中も繰り返し立ち返ること。			

授業コード	科目名	助産ケアと倫理 Midwifery care and The Ethics			担当教員	小西 清美、金城 隆展
助 102					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp (代：長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	非常勤 講師控室	講義の前後で対応します	
1. 授業の概要						
この科目では、助産倫理の原則等について学習し、アドボカシー、責務と責任、協力、ケアリングといった実践上の倫理的概念・倫理的行動の基準、倫理規定とその意義と活用、倫理的感受性、倫理的意思決定、倫理的意思決定と価値観との関係について理解を深める。特に、近年、倫理学の分野において提唱されているケアの倫理を念頭において他者をケアするとはどういうことなのか、ケアとは何かを問い直し医療や助産の臨床場面での助産ケアのあり方について、事例を通して考察する。 この科目は、実務経験のある外部講師が担当し講義（グループワーク）形式で実施する。						
2. 到達目標						
1) 助産師の専門性と助産師の責任と役割を理解する。 2) 倫理的問題・倫理的ジレンマを理解する。 3) 周産期の倫理的問題に関する倫理的アプローチを理解する。 4) ケアの倫理およびケアリングの倫理を理解する。 5) 女性の倫理的意思決定プロセスと支援を理解する。 6) 倫理的問題に関する感受性を高め、助産ケアのあり方を考察できる。						
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 <倫理観、態度> (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助ができる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 <専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力> (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力 の育成に寄与する。						
4. 授業計画と内容						
第1回 ガイダンス・助産師の専門性、助産師の倫理綱領（ICM）（小西） <準備学習：助産学講座1、助産師の倫理綱領（日本助産師会）予習>						
第2回 倫理とは、助産師の倫理綱領、助産師の責任と倫理（小西） <準備学習：助産学講座1、事例について検討>						
第3回 倫理的課題（倫理的ジレンマと道徳的苦悩）、助産師のジレンマ（小西） <準備学習：助産学講座1、事例について検討>						
第4回 倫理的アプローチ：看護の倫理原則、ケアの倫理とケアリングの倫理（小西） <準備学習：助産学講座1、課題レポートについて説明、事例について検討>						
第5回 倫理的意思決定モデル、女性の倫理的意思決定支援（小西） 講義・演習 <準備学習：助産学講座1、Jonsen らの症例検討シートによる分析>						

第 6-7 回 周産期の生命倫理 (1) (2) (金城) <準備学習: 助産学講座 1、第 4 章> ※生命倫理に関連した物語の映像を通して、ケアリング姿勢の理解を深める 第 8 回 臨床における倫理的問題に関する助産ケアのあり方、まとめ/評価 (小試験) (小西)	
5. テキスト・参考文献	
テキスト: 助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院. 参考文献: 小西恵美子編: 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂 その他の参考図書については、随時紹介する。	
6. 準備学習	
・事前課題を提示しますので、課題を学習してから授業に望んでください。 ・授業の後半に「臨床における倫理的問題に関する事例」の課題を提示します。	
7. 成績評価の方法	
課題レポート	30 点
期末試験	40 点
活動状況 (授業態度、授業へのコミットメント等)	30 点
合計	100 点
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・本授業は、講義とグループワークを組み合わせで実施します。 ・授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめ ご了承ください。	

授業コード	科目名	沖縄のケアリング文化と女性 Okinawa Caring Culture for The Women			担当教員	長嶺絵里子、大城凌子、永田美和子
助 103					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	研 417	月曜日 5 限・木曜日 5 限	
1. 授業の概要						
この科目では、ケアリングの概念を理解し、ケアリングの本質や援助の特質について学修する。ケアリングは、人間が生きていく過程のどの段階においても不可欠な普遍的なものであり、文化的背景に根ざしたケアリングは大切である。先輩達が歩んで来た歴史を知り、暮らしの知恵や遊びの工夫などを語れるような支援者であり、対象者がよりよい状態(well being)にあることを支援したいものである。沖縄は常に何らかの権力の支配下に置かれながら、文化や社会を形成してきた歴史的経験を持つ場所である。沖縄の文化・歴史を概観しながら、沖縄のケアリング文化に根ざす女性・家族の力を知り今後のケアの方向を考える。本授業は、講義・演習を組み合わせる。実務経験のある教員、学外講師が担当する。						
2. 到達目標						
1) ケアリングの概念、ケアリングの本質や援助の特質について理解できる。 2) 女性に関連する沖縄の文化・慣習、生活を理解する。 3) 沖縄の歴史的背景とケアリング文化について理解する。 4) 歴史に翻弄されながらも沖縄の共同体を存続させて強く生きる、沖縄の女性について理解を深める。						
3. ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 〈倫理観、態度〉 (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉 (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第 1 回 ガイダンス、助産実践能力とケアリング					(長嶺)	
第 2 回 沖縄の歴史・文化と女性の生き方					(長嶺) 教育研修	
第 3 回 沖縄の産み・育ての歴史慣習とケアリング					(長嶺)	
第 4 回 沖縄の戦中・戦後の出産と女性を取りまく環境・命宝					(長嶺)	
第 5 回 戦後の沖縄 ～変わりゆくもの、変わらないもの～					(大城凌子)	
第 6 回 沖縄の文化とケアリング					(永田美和子)	
第 7 回 沖縄の母子支援とケアリング (他職種連携)					(外部講師：伊礼悠記)	
第 8 回 やんばるの母子支援とケアリング (多職種連携)					(外部講師：岸本美智子)	
5. テキスト・参考文献						
清水裕子, ヒューマンケアと看護学, ナカニシヤ出版						

戦後 50 年沖縄女性のあゆみ，沖縄県(1996)	
特定の教科書は使用しない。毎授業、レジュメ及び関連資料及び関連文献を配布する。	
講義内容に適した参考文献を随時講義の中で紹介する。	
6．準備学習	
沖縄の文化や歴史について、日頃から関心をもって新聞・雑誌などを読んでおくこと。	
7．成績評価の方法	
活動状況（授業へのコミットメント、課題発見、プレゼンテーション等）	20 点
課題レポート：(1000 字程度)	
①入学前レポート「裸足で逃げる沖縄の夜の街の少女たち」を読み、所感をまとめる	20 点
②教育研修後レポート：教育研修を通しての学びと助産観	20 点
③講義終了後レポート「沖縄のケアリング文化と女性」からみた助産師の果たす役割について	40 点
合計	100 点
生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8．履修の条件	
特になし	
9．その他：	
オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明します。	

授業コード	科目名	生殖医学 Reproductive Medicine			担当教員 砂川昌範、徳永義光、 知念安紹
助 104					E - mail m.sunagawa@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
1	1	前期	6	研 427	講義の前後で対応します
1. 授業の概要					
この科目では、1) 生殖のメカニズムと生殖に関連する疾患、2) 生殖補助医療、3) 遺伝と遺伝性疾患：出生前診断・胎児治療・遺伝医学など、助産活動に必要な生殖に関連する基礎的知識ならびに高度な先進医療に関する知識を深める。安全かつ快適な妊娠・出産を提供でき、高度先進医療にも対応できる基礎的能力を修得する。生殖医学と倫理的・社会的問題を概観し、今日の生殖医療の現状と課題（不妊治療や、出生前診断、生殖補助医療等）と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割について理解を深める。この科目は、実務経験のある講師が担当し講義形式で実施する。					
2. 到達目標					
1) ヒトの生殖、発生、先天異常とその原因について理解する。 2) 遺伝子治療の最近の進歩と臨床応用について理解する。 3) 生殖補助医療の動向を理解する。 4) 生殖補助医療における倫理的問題に気づくことができる。 5) 生殖補助医療を受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割を述べることができる。					
3. ディプロマ・ポリシー（DP）との関連性					
本授業は、助産学専攻科のディプロマ・ポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP2) 生殖の解剖・病態生理、不妊治療を学修し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP4) 生殖補助医療、高度先進医療など高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重できる能力 ＜倫理観、態度＞ (DP1) すべての人の生命の尊厳を守り、出生前診断、遺伝カウンセリングを学修し、女性の権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、地域社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、助産学の発展に貢献できる能力					
4. 授業計画と内容					
第 1-2 回 生殖の解剖生理、生殖の病態生理 (砂川) ＜準備学習：助産学講座 2（第 1 章）＞ 第 3-4 回 不妊治療（人工授精、体外受精）、プレコンセプションケア (徳永) ＜準備学習：助産学講座 2（第 4 章）＞ 第 5-6 回 遺伝医学 総論、染色体の異常、遺伝学疾患 (知念) ＜準備学習：助産学講座 2（第 2・3 章）＞					

第 7-8 回 性器奇形や異常、遺伝情報の取り扱い、遺伝カウンセリング 出生前診断、がんゲノム（知念） < 準備学習：助産学講座 2（第 2-3 章） >	
第 9 回 期末試験	
5. テキスト・参考文献	
・助産学講座 2 母子の基礎科学、医学書院，東京. ・仁志田博司（2015）「出生と死をめぐる生命倫理-連続と不連続の思想」（医学書院） ・浅井美智子・柘植あづみ編（2004）「つくられる生殖神話」（サイエンスハウス他）この他の参考図書は、 随時紹介する。	
6. 準備学習	
十分な予習と復習を行うこと。	
7. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	20 点
	合計 100 点
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめ ご了承ください。	

授業コード	科目名	周産期医学 Perinatal Medicine			担当教員	喜舎場千裕、吉田晃大、 新田迅、森實真由美、仲本剛
助 105					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp (代:長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	非常勤 講師控室	講義の前後で対応します	
1. 授業の概要						
この科目では、助産診断・技術を実践する上で必要となる周産期の病態生理について学習する。ハイリスク妊娠・分娩・産褥および周産期の異常、胎児異常の定義、治療、産科手術、産科救急について学習する。また、周産期における医学診断の実際として超音波画像診断、胎児心拍陣痛図を学習する。この科目は、実務経験のある講師が担当し、理論と実践の両面から理解を深めます。授業形式は、講義・演習で実施する。						
2. 到達目標						
1) 正常妊娠・分娩・産褥の生理を述べることができる。 2) 正常妊娠・分娩・産褥の診察法を理解する。 3) 異常妊娠・分娩・産褥期の診断・治療を理解する。 4) 妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎的と検査法を理解する。 5) 産科手術・救急対応について理解する。						
3. ディプロマ・ポリシー(DP)との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 〈倫理観・態度〉 (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 〈専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力〉 (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第 1-2 回：(喜舎場) 1) 妊娠成立の機序 妊娠診断、妊娠成立のメカニズム、妊娠と hCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン) 2) 妊娠中の母体の変化 3) 胎児の発育と胎児付属物 胎児付属物の構造と機能(胎盤、臍帯、卵膜、羊水) (循環器、呼吸器、血液、消化器、腎泌尿器、代謝・内分泌) ＜準備学習：助産学講座 6 第 2 章＞						

第 3-4 回目：妊娠初期にみられる異常

(吉田)

- 1) 妊娠初期に見られる疾患の病態、診断、治療、流産、子宮外妊娠、胎状奇胎
母児間血液型不適合

- 2) 胎児胎盤系機能検査、胎児心拍陣痛図総論胎児心拍陣痛図の判読演習

＜準備学習：助産学講座 6 第 3 章＞

第 5-6 回：

(仲本)

- 1) 異常妊娠：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫早産、PROM（前期破水）
- 2) 合併症妊娠：DM, 甲状腺機能、血液疾患、自己免疫疾患など
- 3) 母子の感染症 TORCH 症候群等

＜準備学習：助産学講座 6 第 3 章＞

第 7-8 回：

(新田) 講義・演習

- 1) 正常分娩：分娩の経過 解剖・生理
- 2) 分娩の異常、CPD、胎位・胎勢・回旋異常

＜準備学習：助産学講座 7 第 1 章＞

第 9-10 回：超音波断層法(妊娠初期・中期・後期)

(仲本) (病院演習)

＜準備学習：助産学講座 6 付章、写真でわかる助産技術＞

第 11-12 回：

(森實)

- 1) 産科手術および産科的医療的処置と救急処置

分娩誘発・陣痛促進法、骨盤位娩出術、吸引娩出術、鉗子娩出術、クリステレル胎児圧出術
産科手術（帝王切開術）、会陰切開縫合術

- 2) 救急処置の実際(産科的出血の対応)

＜準備学習：助産学講座 7 第 7 章＞

第 13 回：

(仲本)

- 1) 産褥期の異常と偶発疾患の診断と治療、
- 2) 身体的異常（産褥期感染症、血栓・塞栓症、産褥後遺症）

＜準備学習：助産学講座 7 第 5 章＞

第 14-15 回：

(仲本) 講義・演習

会陰縫合術の理解

＜準備学習：助産学講座 7 第 7 章＞

第 16 回 期末試験

5. テキスト・参考文献

武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学 2（産科編） 第 3 版メジカルビュー

武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学 1（婦人科編） 第 3 版メジカルビュー

我部山キヨ子他編「母子の基礎科学」第 6 版（助産学講座 2）医学書院

我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」第 6 版（助産学講座 6）医学書院

我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ分娩期・産褥期[2]」第 6 版（助産学講座 7）医学書院

堀内成子編「助産診断・技術学Ⅰ」（助産学講座 5）第 6 版 医学書院

6. 準備学習

十分な予習と復習を行い講義に出席すること。

7. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント)	20 点
合計	100 点
・生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
オムニバス方式授業であり、講義日は変動する場合がある。授業日の詳細は授業時に説明する。	

授業コード	科目名	新生児・乳児学 Neonatal and Infant Medicine			担当教員	木里頼子
助 106					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp (代:長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	非常勤講師 控室	講義の前後で対応します	
1. 授業の概要						
この科目では、新生児のケアを適応生理に基づいて実施できる基礎的能力を修得する。子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を修得する。また、ハイリスク新生児に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を修得する。乳幼児期が人間の発達基礎を培う時期であることを知り、乳児期の発育・発達の特徴に関する知識を修得する。本授業は講義形式で実施する。医師として実務経験のある学外講師が担当する。						
2. 到達目標						
1) 新生児の適応生理について理解する。 2) 新生児のフィジカルアセスメントを理解する。 3) 新生児の成熟度と適応過程について述べるができる。 4) 低出生体重児の生理的特徴について理解する。 5) 低出生体重児に特有な病態・治療について理解する。 6) 乳児の身体的発育と精神的発達の相互の関連について理解する。 7) 新生児の胎外生活への移行期や移行後の助産診断やケアにつなげることができる。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第 1、2 回	ガイダンス、新生児の適応生理 新生児の特徴、生理的適応変化、呼吸器系の生理と診療、内分泌系・代謝系の異常、体温調節と保温、循環器系の基礎と診療、フィジカルアセスメント ＜準備学習：助産学講座 8 第 2-3 章＞					
第 3、4 回	新生児の病態と疾患 黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療、検査、感染症、新生児外科疾患 ＜準備学習：助産学講座 8 第 4 章＞					
第 5、6 回	ハイリスク新生児の概念 早産・低出生体重児の急性期管理、慢性期管理、ハイリスク児の主要な病態と診療					

＜準備学習：助産学講座 8 第 5 章＞ 第 7、8 回 乳幼児の発達と健康診査 身体的発育と精神的発達、こころの発達、運動機能発達、健康診査について ＜準備学習：助産学講座 8 第 6 章＞ 第 9 回 期末試験	
5. テキスト・参考文献	
石井邦子，廣間武彦 編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期，医学書院 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会 著：乳幼児健診マニュアル，第 7 版，医学書院 仁志田博司 編：新生児学入門，医学書院	
6. 準備学習	
・ 十分な予習と復習を行うこと。 ・ 周産期ハイリスクケア論（NCPR 講習）、分娩期助産演習、産褥・新生児期・育児期の助産診断・技術学に継続させて、学びを深めること。	
7. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント)	20 点
合計	100 点
・ 生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。	
8. 履修の条件	
特になし	
9. その他	
・ 授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。	

授業コード	科目名	母子の栄養・薬理学 Maternal and Child Nutrition and Pharmacology			担当教員	中村克徳、大田久美子、 伊差川サヤカ、宮城一菜
助 107					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp (代:長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	非常勤講師 控室	講義の前後で対応します	
1. 授業の概要						
母子に関わる栄養学の基礎と薬理学の基礎を修得する。栄養については、助産師として妊産婦・授乳婦や乳幼児の食生活に関する基礎的な知識を習得し、妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な栄養指導や食育について学習する。薬理については、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解する。さらに思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される薬について理解する。また、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習する。本授業は講義形式で実施する。実務経験のある学外講師が担当する。						
2. 到達目標						
1) 日本人の食生活の現状と動向について理解する。 2) 妊娠・授乳期、乳幼児期の理想的な食生活を理解する。 3) 妊娠・授乳期、乳幼児期の栄養指導が説明できる。 4) 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病における栄養指導が説明できる。 5) 妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な食育が説明できる。 6) 薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を理解する。 7) 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。 8) 妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深め、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かを考察できる。						
3. ディプロマポリシー（DP）との関連性						
本授業は、助産学専攻科のディプロマポリシーに基づき、下記の育成に寄与する。 ＜倫理観、態度＞ (DP1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力 (DP4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重できる能力 (DP6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域に貢献できる能力 (DP7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力 ＜専門的知識・技能・思考力・判断力・表現力＞ (DP2) 女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する支援ができる能力 (DP3) 周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力 (DP5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力						
4. 授業計画と内容						
第1回	ガイダンス、母子の薬理学 婦人科領域で使用する薬・健康食品・受胎調節実地指導に関する薬事法： (低用量ピル・更年期障害など) 健康食品について					(中村)

＜準備学習：助産学講座3 第3章＞		
第2-3回	妊娠中の薬物療法 妊婦に頻用される薬剤 授乳中の薬物療法 授乳婦に頻用される薬剤 母乳と薬	(大田)
＜準備学習：助産学講座6 付章2＞		
第4-5回	薬理学総論（作用機序・薬物動態等） 新生児と薬理 母乳育児とアレルギー、母乳育児と感染症	(伊差川)
＜準備学習：助産学講座2 第5章＞		
第6-9回	母子の栄養学 日本人の食生活の現状、栄養と食品に関する基礎的知識 妊娠・授乳期、乳幼児期における栄養指導 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病における栄養指導 妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な食育	(宮城)
＜準備学習：助産学講座3 第2章＞		
第10回	期末試験	
5. テキスト・参考文献		
我部山キヨ子 他編：助産学講座2 基礎助産学(2) 母子の基礎科学，医学書院 我部山キヨ子 他編：助産学講座3 基礎助産学(3) 母子の健康科学，医学書院 我部山キヨ子 他編、助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[Ⅰ]妊娠期，医学書院 香川明夫監修：八訂 食品成分表，女子栄養大学出版部 厚生統計協会編：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2023/2024 年度，一般財団法人厚生労働統計協会 平山宗宏監：母子健康・栄養ハンドブック，医歯薬出版 伊藤 貞嘉，佐々木 敏：日本人の食事摂取基準 2020 年版/厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書，第一出版 五十嵐隆監修：授乳・離乳の支援ガイド（2019 年改訂版）実践の手引き，母子保健事業団 吉岡充弘 他：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学，医学書院 伊藤真也，村島温子 編：薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳，南山堂 林 昌洋，石川 洋一 編，妊娠・授乳とくすり Q&A—安全・適正な薬物治療のために 今これだけは知っておきたい！ ※この他の参考図書は，随時紹介する。		
6. 準備学習		
・ 十分な予習と復習を行うこと。 ・ 助産学実習に継続させて、学びを深めること。		
7. 成績評価の方法		
期末試験	80 点	
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント）	20 点	
合計	100 点	
・ 生成 AI による情報の偽装を禁止する。生成 AI が出力した内容を自分の意見や成果物として提出することは、不正行為とみなす。		
8. 履修の条件		
特になし		

9. その他
・ オムニバス方式での授業です。 ・ 講師状況に応じて、オンライン授業を実施する場合があります。 ・ 授業計画は、講義の進行状況に応じて変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。